

KSKQ

イマージュ

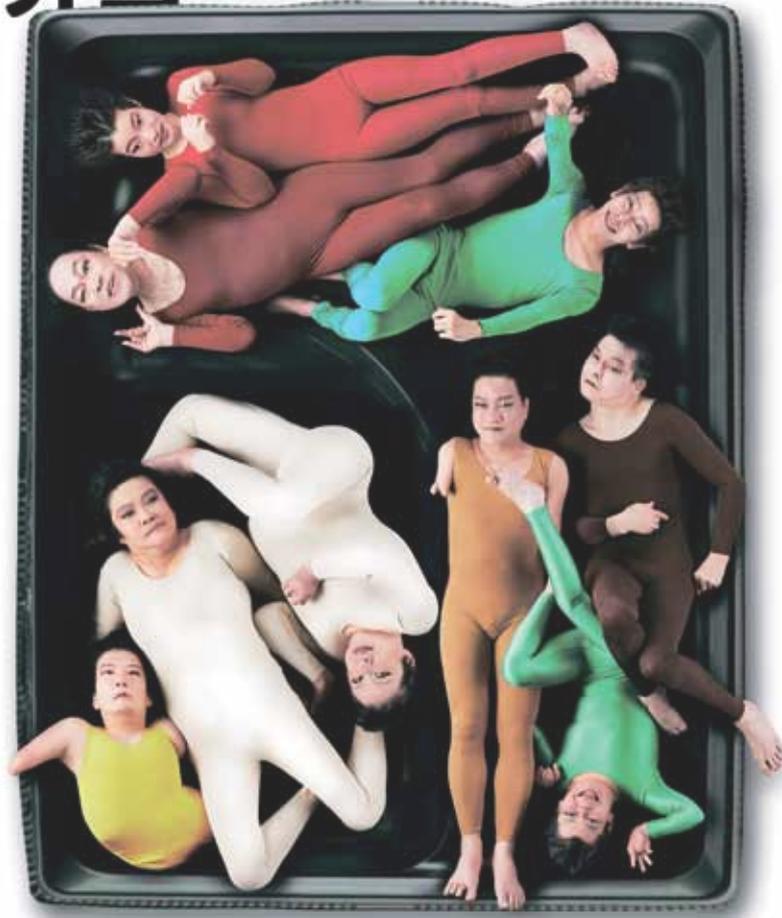
2020年9月

1991年9月3日 第三種郵便物承認 毎月(1・2・3・4・5・6・7・8の日)発行

一大決心の東京公演

11月6日～8日 @座・高円寺1

箱庭弁当



まだまだ油断出来ない新型コロナ
感染症の渦中です。皆様いかがお
過ごしでしょうか。

劇団態変からのダイレクトメール
は、前回、4月に、『心と地』公演
延期という残念きわまりないお報
せをさせていただきました。

その後、コロナ禍の第二波もやっ
てまいりましたが、少しずつこの
感染症とのつきあい方も見えてき
つつあります。

熟考を重ね、万全の対策の上で、
東京公演に取り組む決心をいたし
ました。

態変の近況報告と合わせて、ご案
内させていただきます。

劇団態変公演 箱庭弁当 - さ迷える愛・破

座・高円寺 秋の劇場 16

作・演出・芸術監督：金満里

演奏：ゆりかごから墓場までトリオ（瀬戸信行 CI 熊坂路得子 Acc 宮坂洋生 CB）

音：かつふじたまこ

[日時] 2020年11月6日(金) 14:00★/19:00
7日(土) 14:00★/18:00
8日(日) 14:00

[会場] 座・高円寺1

[料金] 一般 4800円
22歳以下 3000円
12歳以下 2000円

※全席指定・税込

※障害者手帳をお持ちの方は1割引

*車椅子スペース

前日までに要申し込み(定員あり)

*託児サービス

★の公演のみ。料金：1,000円

(定員あり・対象年齢1歳～未就学児・1週間前までに要予約)

チケット購入方法

受付や入退場の密を避けるため、全席指定席といたします。ご予約の際、座席をご指定ください。

複数枚、同時にご予約の場合も、隣同士のお席はお選び頂けない場合があります。

以下の手順で事前にチケットの購入をお願いいたします。

① 座・高円寺チケットボックス 劇場窓口 (10:00～19:00、月曜定休)
<ul style="list-style-type: none"> ・お支払い＝現金またはクレジットカード ・ご予約の際、座席の場所をお選びください。
② 座・高円寺チケットボックス 電話 03-3223-7300 (10:00～18:00、月曜定休)
<ul style="list-style-type: none"> ・ご予約の際、席の位置のご希望をお伝えください。(前の方、右手の方など) 指定席となります。 ・セブンイレブンで期限内にお支払いください。(お支払い＝クレジットカード・現金払いなど) ・セブンイレブンでお支払いの後、チケットをお引取りください。手数料として、システム利用料(165円/1件)と発券手数料(110円/1枚)がかかります。
③ 座・高円寺チケットボックス インターネット予約 https://za-koenji.jp/
<ol style="list-style-type: none"> 1. ご希望の公演を選択 2. 公演日時・席種を指定 3. お支払方法を選択する(クレジットカード/セブンイレブン支払) 4. 席種・枚数(4枚まで)、座席位置の選択(PCのみ) 5. お客様情報の入力 6. 予約内容の確認・確定(受付番号・払込票番号等発行) 7. チケットのお引取り
<p>※ お引取り方法</p> <p>(1) WEB上で、クレジットカードでのお支払いが完了している場合 お知らせする予約番号を、劇場チケットボックスの営業日に、2階劇場事務室窓口にお持ちいただきお引き取りいただくか、当日開演10分前までに、会場受付でお引き取りください</p> <p>(2) セブンイレブンでのお支払い・お引取りをご希望の場合 お知らせするセブンイレブン振込票番号を、支払い期限までに、お近くのセブンイレブンの店頭にお持ちいただきご精算のうえ、チケットをお引き取りください。ご利用手数料として、システム使用料(165円/1件)、発券手数料(110円/1枚)がかかります。</p>



劇団態変東京公演、を、2年ぶりに行います！

難解な舞台と思われている態変ですが、珍しく私の直球でファンタジーをやる！と言い出し作った『箱庭弁当・さ迷える愛・破』は、昨年6月伊丹アイホールで初演でした。この作品をぜひとも関東に留まらぬ東日本のみなさんに、観ていただきたいと思います。

『箱庭弁当・さ迷える愛・破』を彩るのは、飽きられて捨てられた弁当のご飯やおかずたちです。それは、不格好で膨れすぎたご飯やおかしな形の野菜やエビフライや焼き肉といった、既製食物からはみ出してしまふ不良品たち。その中のタコウインナーが、捨てられたゴミ箱から脱走し空腹を抱えながら、違う世界へと踏み出す冒険ロードムービーです。

それは決して勇氣あるヒーローが大志を抱くことで始まるファンタジーではなく、小さくひ弱なものが置き去りにされ怯え嘆き慟哭しながら、見捨てられへお腹が空いた」というただ一点の衝動に突き動かされ、垣根を潜って行くさ迷いがあるのみです。そこで出会うビツクリや命からがら、でへ心のありかを探す」ことを教えられ、それをキーワードに歩を進めていくワクワクへとこのロードムービーは広く深く、異型の摩訶不思議世界を駆け上がっていく醍醐味に誘います。

それは、誰もが持っている子ども心の心を、今ここに呼び覚ますための魔法です。

そして大事なことを言わなければなりません。

4年前に、施設障害者19名を「社会にとって役に立たない障害者は居ないほうがいい」と言って殺した犯人がいました。障害者の私だからということをごえて人間として到底容認できない現実が広がっています。

だからこそ今、犯人を語るより、その手にかかり殺されてしまった19名を取り戻したい、19名と一緒に成長の旅をしたいと思ひ、具体的手法にファンタジーしかない、とこの作品になりました。

そして現在コロナを理由に更に、高齢者や障害者の命の価値を、お金の換算で図っている、とする悪魔の声の権力が忍び寄っているのを感じます。この作品に、そういうものに「そうじゃない！」と、へ心のありかを探す」声に素直になつていいんだ、という大切なメッセージを届けるつもりです。

今の人間が引き起こす、悪の最大警告の時期にこそ、態変の東京公演を観ていただけるよう、大阪の稽古場では再演に向け稽古に励んでいます。

どうぞみなさんに、座・高円寺へ足を運んでいただきたく、お待ち申し上げます。

金満里(ご飯)

コロナ禍による潜伏を乗り越えて 劇団態変、活動再開！！！！

小泉ゆうすけ (茄子の甘辛煮)



2月、『箱庭弁当』再演(横浜)を終え、3月から新作『心と地』の稽古に入りました。稽古は順調に進んでいましたが、新型コロナウイルスの感染者数がどんどん増加し、態変も4月5日から稽古は中止、結局は5月に予定していた『心と地』公演自体も延期となりました。

「お客さんたちに唯一無二の表現を観てもらおう！」と、どんな困難にも芝居を打ち続けてきた態変が稽古を中断し予定の公演を延期するなんて、これまで全く無かったことでした。

稽古中止に伴い態変事務所自体も基本的に閉鎖とし、年がら年中事務所に通い毎週の稽古でパフォーマーや黒子と顔を合わせるとい生活から、がらりと「どこにも行かない・誰にも会わない・家事をやっているだけ」の生活に変わりました。新型コロナウイルスの危険性を頭では分かっている、心のどこかで「冗談やろ！」と、思っている自分が居て、本来の稽古日の日曜には時間どおり目が醒めました。そして毎日身の回りのことだけをやってる生活に「一体自分は何をやっているんだらう？」と、憂鬱な気持ちになりました。他のパフォーマーからも、どこへも出られない閉塞感や、逆に仕事に行かざるを得ない事への不安。稽古が出来ないことへの違和感、喪失感の声を聞きました。

「この状況は、いつ迄続くのだろう」と、悶々としていましたが、5月のGW後に緩やかに制作メンバーでのミーティングを再開。中断していた稽古も6月14日から再開しよう、と決まりました。メタモルホールの床はハイター溶液で拭いてから更に水拭き。開けられる扉は全て開けて換気。検温、手の消毒・うがい。稽古参加のパフォーマーも集合時間をずらし、いわゆる三密を避け、安全を期しての稽古です。

下村雅哉 (焼肉)

今年2月、クルーズ船「ダイヤモンド・プリンセス号」が、新型コロナウイルス感染症の検査のため、横浜に停泊していた。その間近で、僕たちはTPAM招聘公演『箱庭弁当』をしていました。その後、新型コロナウイルスが全国へ感染拡大することは、予想できなかったことです。



その後、世界が一変しました。公演中止、ステイホームで私の身体も変調になりました。そして、人とのつながりにソーシャルディスタンスという概念が入ってきました。その後の社会は、4年前の「障害者大虐殺事件」から、ますます露骨に「命の格差」を現わしてきました。『箱庭弁当』東京公演では、改めて「命」を感じて舞台で表現したいです。

池田勇人 (アスパラガスの塩茹で)

今回、コロナ状況下の中、劇団態変の練習も一旦中止となり、また仕事も自粛することとなり、家で自分の好きな音楽を作ることや、普段しない料理をしたり、日々の生活を送った、テレビを見る機会が多く、その中で障がい者の立ち位置とは何かと考える時間も多かった、本を読む時間もあり、横塚さんの「母よ殺すな」を読ませて頂いた、1970年、障がい児の親が介護



疲れで、障がいを持った我が子を殺してしまうのである、2016年7月26日におきた障がい児者殺傷事件、「障がい者は生産性がない」という恐ろしい発想は戦後七十五年経った今も、日本社会のあちこちにはびこる。そのようなことを仄聞するたびに僕は寂しくなる。そのような気持ちを、家族のように暖かい気持ちで支えあい、障がい、健全問わずの向き合い方ができることも、劇団態変の魅力であろう。エキストラでの参加から三年が経つ。本当に、この自粛期間、劇団のパフォー

6月14日再開稽古当日。

「久しぶり〜。稽古再開して嬉しい!!」と、「満面の笑み」どころか身体中が動き出して喜びをぶつけてくる人。「久々に自分らしく身体を動かさせた!」という人。「働いてきた職場から、コロナ蔓延で「来なくていい」と言われて自宅待機。やっぱり健康者の社会から自分は必要とされていないや、と痛感した」と心情を吐き出し、稽古でいきいきと自分の障害の身体を現わす人…。僕自身も、引き籠り中とは違う、自分の障害の身体と2ヶ月ぶりで格闘出来ることを、本当に嬉しく感じました!

先の見通しがつかない状況は続いています。9月からは『箱庭弁当』東京公演へ向けての稽古を行なっています。

コロナで稽古や本番が行なえなかったことは大きな痛手でしたが、「稽古が出来ること」「集える場があること」の大切さを再確認できました。その気持ちと共に稽古を重ね、再び皆様に劇場でお会いできる日を楽しみにしています。

渡辺あやの (タコウインナー)

今回の東京公演の作品『箱庭弁当』は、タイトルからしても子供大人まで幅広く、いろんな方向で想像しながらワクワクドキドキして頂ける作品となっていると思います。

そして、コロナの影響で制限もあり、したくてもなかなか公演自体が難しくなっている今、変わりゆく日本。不安もあるが悔しい。だからこそコロナと戦い、最後までこの作品をやりとげたい。稽古がやれていることに幸せを感じながら。



マーや、健常のスタッフの顔を思いだすことは多かった。だから再開した時もうれしかった。自分は軽度障がい者で、表現への取り組みは本当にむずかしいことも多いが、劇団態変では、みんな志が高く、暖かい。一表現者として今後も頑張ろうと思う。今後とも宜しくお願いします。

井尻和美 (ご飯)

9月6日…。コロナ禍で家族から稽古に行く事を反対されていた私にとって、半年振りの稽古だった。一時は降板も考えたが、ありのままの姿で舞台を這い回り回りたい気持ちが強く、半ば強引に説得した形となった。

久々の稽古で、この半年間の押し殺していた自分の身体の動きや想いを爆発させ、随分スッキリした。態変は、もはや私の生き甲斐となり、私にしか出来ない演技で、これからも続けて行きたい!



田岡香織 (エビフライ)

私は、普段の生活では、色々しんどいことを思い出すけど、ここに来たら稽古もやけど、仲間に出るから、しんどいことを忘れる。

稽古が出来るようになって、うれしかった! 今回の『箱庭弁当』東京公演では、動かないけどめっちゃよく動く私の身体を観て欲しい。



活動報告

7.26 障害者大虐殺 追悼アクション

相模原津久井やまゆり園障害者虐殺事件から4年目。

今年も大阪・梅田で事件の犠牲者を追悼するアクションが行なわれた。ここには態変メンバー数人も有志として企画に加わり、またほとんどのメンバーが当日参加で賛同の気持ちを持ち寄っている。

1分間の黙祷の後、隣の人とのソーシャルディスタンスを確保したスタンディングと9人のスピーチで街を行き交う人へのアピール。そして、殺された19人の年齢とその人の生前の様子や好きだったことを書いたカラフルな幟(のぼり) 19本を掲げながら、列になって街をぐるりと歩くというアクション。事件の起こった日である7月26日、夕方からおよそ3時間、約200人が集まり19人に想いをはせることができた。街を忙しく歩き過ぎる多くの人も、その場所に車イスが無数に立ち並び、また言語障害を持った人が語るアピールがスピーカーから大きく流れてくるのを耳にし、この街にいろいろな人が生きているということを思い出した(または、思い知った)に違いない。

9人のスピーチに耳を傾けながら、事件への怒り、社会への怒り、申し訳ない、何も変えることができず不甲斐無い、そして、痛い、という犠牲者の苦しみをあらためて感じた。障害者を、隠したい、見たくないと思う一人一人の気持ちが障害者の命を軽んじる社会の風潮を作り、このような事件を生み出してしまった。

劇団態変が、そのままの身体を舞台に乗せてパフォーマンスすることは、大きな意味を持ち続けている。公演を行うことが私たちの日常であるが、しかしこの日常は、障碍を持つメンバーが稽古場に自分の意志で集まることができると、いう今の日本では当たり前とは言えない事象の上に成り立っている。さらに大阪を拠点とする態変が、東京で公演を行う、それを多くの人が観に集まる、ということは奇跡的な事件とも言える出来事だ。そこを土台として、今回の態変が表現するのは、軽やかに世界を反転させてしまうような大人のファンタジー。私たちの当たり前の日常の中には、まだまだ足りないピースがあるのではないかと？ そんなことを身体で語る態変の舞台、ますます多くの人に見てほしいと思う！

※4年目の追悼アクション当日のスピーチをまとめた映像(字幕有)をfacebook
もしくはYouTubeで視聴できます。『726追悼アクション』で検索してください。

和田佳子 劇団態変制作部スタッフ



最新刊
2020年夏号

情報誌イマージュ VOL.77

クロスオーバー談義●白井聡×金満里

コロナ禍、優生思想、新自由主義… 今こそ、武器としての思考を

「相模原障害者大虐殺事件」から4年。毎年夏号では、優生思想にどう抗するか、をテーマに誌面を組んできたが、最新号(77号)では我々を否応無く巻込んでくるもっと大きな仕組み、資本主義への視座に焦点をあてた。巻頭対談のお相手は今年、「武器としての資本論」を上梓した白井聡さん。気鋭の政治学者と資本主義を内面化した人生から脱却するための方策を語り合った。

もうひとつの特集は「COVID-19」。新型コロナウイルスのパンデミックは、人類が今後どのような方向へ生き延びるかを我々に突きつける。現在の社会の枠組みでは、人間を経済効率でしか計らず、命の選別が当然のように内面化される事象も起こっている。

100年前の新型コロナウイルス「スペイン風邪」が流行った時は、渦中の記録はほとんど残されていないという。自分たちはどのような立場からどう舵を取ろうとするのか。進行中のコロナ禍を生きる営みの記録と現時点での検証をまずはご覧いただきたい。

1冊：500円 /年間購読 1500円(年3回・送料込) バックナンバー3冊 1000円

<購入方法> 同封の郵便振替用紙にご記入の上、お振込み下さい。単品でのお申込みは希望の号数記入もお忘れなく！

口座番号 00920-8-320343 加入者名 イマージュ・劇団態変

金満里身体芸術研究所

〈研究生日誌〉

「からだの原態」

私は、今年6月から金満里身体表現研究所の研究生となった。研究生となった理由に、2つの願望があった。1つは、からだで態変表現の根底にあるものを感じたいという願望。2つは、私の身体観をぶっ壊し、からだと一から向き合いたいという願望。「私の身体観において、からだとは、頭に従順であり社会的・社会的かつ機能性あるモノでしかなかった。表現や運動においてもである。からだは私からはるか遠い存在に感じていた。しかし、態変に裏方・黒子として関わる中で、自己の身体観を見つめ直すようになった。そのキッカケは、身体の内省」という声の存在を知ったこと。態変表現の根底としてあった、身体の内省は、私の身体観を真っ向から否定した。からだに意思があるの？ 未知の領域だった。どうしてもその声を聞かなければいけないと確信した。私からだを他人事ではなく、私自身として感じるために――

研究所のレッスンは、からだに気を巡らせることから始まる。スーッと息を吐き、臍下丹田に氣を入れ、呼吸に重なるように氣を巡らせる。そして、寝転び、重力を全身で感じながら「ロン」と転がる、ローリング、を済ませる。ここまでが準備。金さんがやってくると、共に氣合わせ。そして、早速、金さんからもらった課題に取り組み。時に、金さんの言葉を手がかりになら。とにかくからだに巡る氣に集中し、からだを感じ取る重力と想像に表現を任せきる。すると、正直な私からだは、私にすら見せたことのない姿を発露する。汗は吹き出て止まらない。時折、よく分からない声で勝手に出て、その声でハッと自我を強く取り戻す。しかし、すぐ集中。予定調和ならだはいらない、その瞬間つまれたからだに集中するのだ。そこからなにがみえる？ そんな風にならだに問うてみる。内省は聞こえるだろうか。みみ・ゆび・ふくらはぎ・わき、そのほか個々が初めて感じる肌感覚にからだで喜ぶ。なんなん？ この動き(笑)と個々が苦しみながら爆笑している…。慣れないからだの動きに苦しさや襲いながらも、あつという間に1時間30分が経っていることがほとんどだ。金さんだからだを振り返る…。レッスンを終えたからだは、重力、風、匂いや色、そして稀に、私を目一杯に感じていた。私は、からだの原態を目の当たりにした気がした。

大橋一哉(おおはしつかず)

追手門学院大学 社会学部4年

『箱庭弁当』横浜公演で初黒子参加



金満里 著「生きることはじまり」韓国語版

劇団態変主宰金満里が、自身が重度身障者となり施設生活・運動を経て自立、身体障害者だけの劇団「態変」を主宰し、一児の母となるまでの半生を記録した著書「生きることはじまり」(筑摩書房 1996年出版)の韓国語版が、韓国で今年出版されました。

韓国語版のタイトルは、日本語訳すると「色は臭へど - 金満里として生きること」と、劇団態変旗揚げ公演の名前を冠しています。

日本語版の「生きることはじまり」は、残念ながら絶版となっていました(インターネットを通じて中古品は購入可能)が、今回の出版を通して韓国の地で劇団態変に出会われる方を生み、それが日本へとの新しい架け橋になることを願わずにはられません。

<購入方法>

本のアラジン <https://vo.la/bTcY1>

YES24 <https://vo.la/3wnCO>

Kyobo book <https://vo.la/VRgbP> で入手できます

*日本からのネット注文は、少し時間がかかりますが、<https://vo.la/VRgbP> から可能です。または、出版社のメール poombooks2017@gmail.com でも承っております。(日本語で可)

劇団態変は2020年度新規継続賛助会員を募集しています。

劇団態変は、2012年4月に賛助会員制度を設けました。行政からの補助金を受けず、身体障害者である態変のパフォーマーが主体となり芸術創造活動を行っていくため、資金面でのご協力を市民の皆様にお願ひする取り組みです。しかし今年度はこれまでに誰も経験したことがないコロナ禍で、関西での公演が延期となる等活動の機会が少なくなり収入減は避けられません。11月の東京公演でも様々な感染予防対策を講じるための経費が膨らみますが、会員の皆様のお力をお借りしながらこの危機を乗り越え、無事に舞台をお届けしたいと考えております。公演に駆けつけていただく事はもちろん、資金面でのご支援からも大きな勇気をいただいております。何卒よろしくお願ひいたします。

年会費

個人会員(年会費) ー□ 5,000円

法人会員(年会費) ー□ 20,000円

<ご入会方法> 下記いずれかの方法をお選びください。

郵便振替

同封の振替用紙にご記入の上、お振込み下さい。

口座番号 00920-8-320343 加入者名 イマージュ・劇団態変

PayPal

メールアドレスとクレジットカードをお持ちの方はホームページよりご利用いただけます。劇団態変HP → 日本語TOP → 「賛助会員制度」にお入りください。

会員特典

- ・会員証発行
- ・劇団態変公演ダイジェスト映像DVD進呈(年1回)

(個人会員特典)

チケット料金500円割引

※今年度は11月東京公演、3月伊丹公演を予定

(法人会員特典)

一作品1名様ご招待

『箱庭弁当 - さ迷える愛・破』 東京公演 コロナ対策について

今回の東京公演は、各関係機関の感染拡大予防ガイドラインに基づき、可能なかぎりの感染予防措置をとって行ないます。新型コロナウイルス感染症予防及び拡散防止をし、態変の東京公演を無事に実現することが出来ますよう、皆様のご理解とご協力を何卒よろしくお願ひ申し上げます。

なお、今後の状況によりましては、変更や中止もやむを得ない可能性もございます。

最新情報は態変公式ホームページにてお知らせいたしますので、ご来場前に必ずご確認をお願いいたします。(右記QRコードからもご覧いただけます) 劇団態変制作部

